

2021年8月20日

各 位

会社名 株式会社キャンバス  
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己  
(コード番号：4575 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役最高財務責任者  
加登住 眞 (電話 055-954-3666)

**<マザーズ> 投資に関する説明会開催状況について**

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○ 開催状況

開催日時	2021年8月20日 10:00～11:00
開催方法	インターネットを利用した双方向オンライン会議形式
開催場所	Zoom ウェビナー
説明会資料名	2021年6月期決算説明会

【添付資料】

1. 2021年6月期決算説明会資料

以上



# 2021年6月期決算説明会

---

2021年8月20日

株式会社キャンバス  
(東証マザーズ 4575)

# 決算と財務状況

---

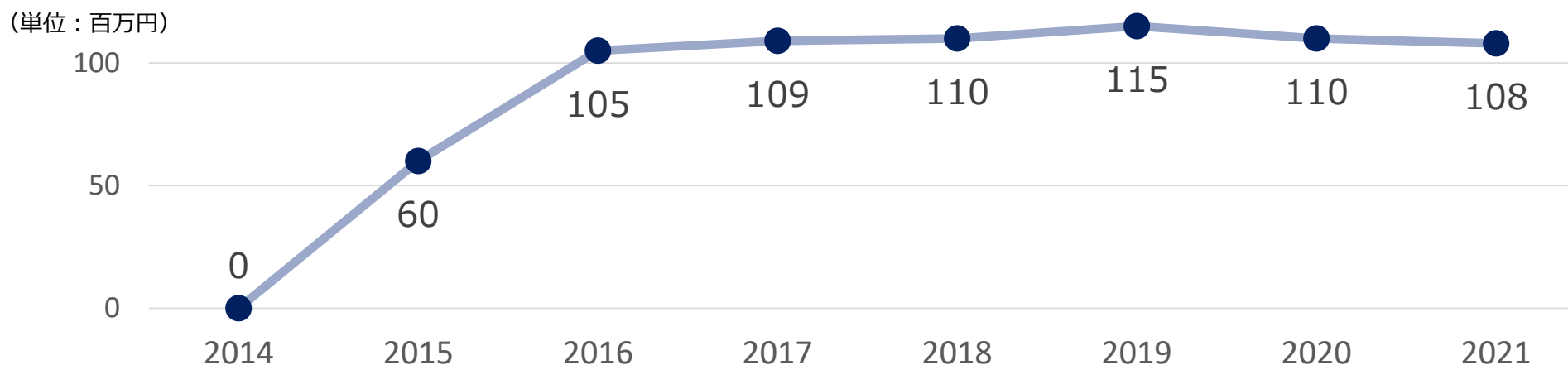
## 前期のポイント

- CBP501は開発段階で、将来の大きな収益を生むための先行投資赤字を計上
  - ✓ 有効な薬剤の少ない末期膵臓がんのフェーズ1b試験で好感触を獲得
- 収益はライセンス供与済み化合物CBS9106のアドバイザーフィー
  - ✓ ライセンス先Stemline社（米国）がフェーズ1試験を推進中

		前期比	%
事業収益（売上高）	108 百万円	△2 百万円	△1.0 %
営業利益	△547 百万円	+19 百万円	
経常利益	△555 百万円	+18 百万円	
当期純利益	△531 百万円	+41 百万円	

### CBS9106ライセンス契約に基づく収益

- 2014年12月締結・2018年8月拡大により**7期累計717百万円**を受領
  - ✓ 契約一時金：2014年12月・2018年8月にそれぞれ受領
  - ✓ 技術アドバイザリーフィー：一定期間受取る契約（2021年6月まで）
- 技術アドバイザリーフィーの期間は2021年6月で終了しますが、**今後もマイルストーンペイメント・ロイヤルティ等の条項は変更ありません**



### 新規提携等による事業収益獲得に向けた取り組み

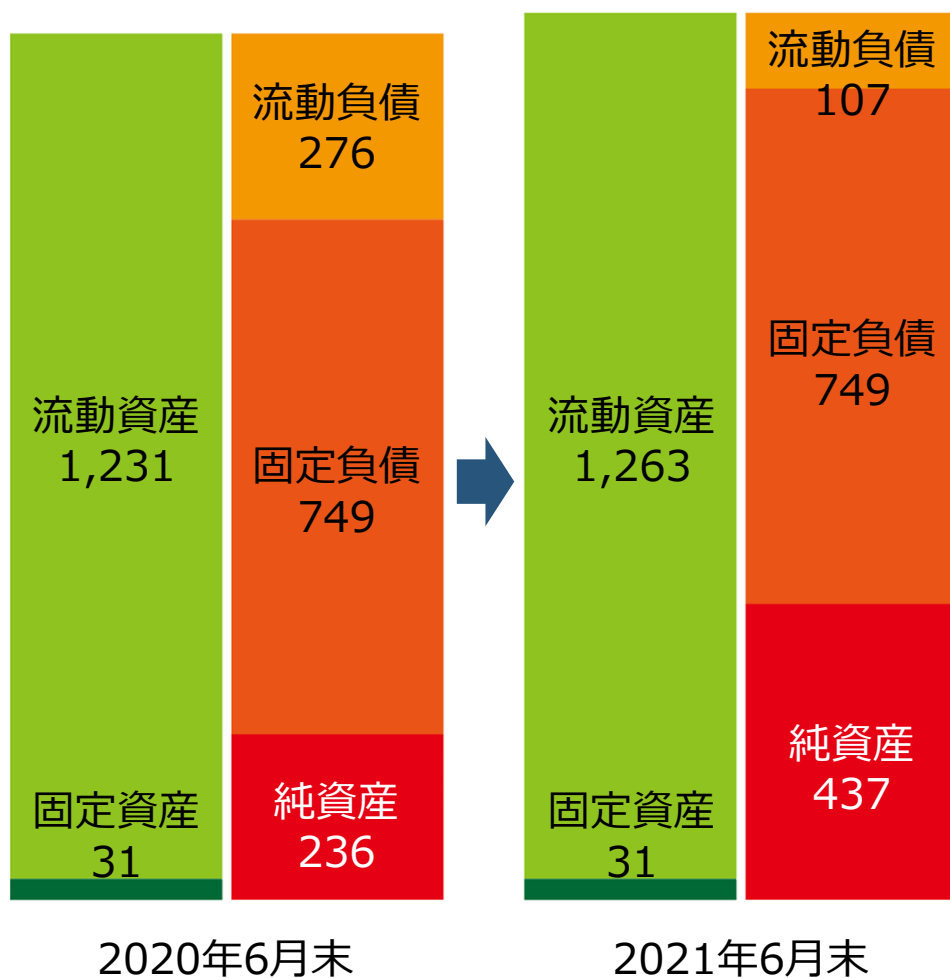
#### ➤ CBP501

- ✓ 国内外製薬企業等との交渉折衝を重ねたものの、提携獲得には至らず
- ✓ 注目を集める領域以外での提携に製薬企業等が消極的な傾向がさらに強まり、この傾向（&臨床試験の構造変化など）を踏まえ自社開発に舵を切る創薬企業が続出
- ✓ 一方で後期開発終盤の提携市場は活発。先へ進める価値はあると判断

#### ➤ その他のプロジェクト

- ✓ 前臨床試験直前のもの：早期アライアンスによる収益獲得を図る
- ✓ 基礎研究段階のもの：リード化合物獲得へ

## 2021年6月期の業績 (4)貸借対照表の推移 (単位：百万円)



### 2020年6月期末からの主な変化

#### ▶ 流動資産

- ✓ 売掛金 56 → 0
  - Stemline技術フィー期間終了
- ✓ 前渡金 37 → 71
  - 臨床第2相試験準備に伴う増加

#### ▶ 流動負債

- ✓ 未払金 188 → 85
  - フェーズ1b試験終了に伴う減少
- ✓ 仮受金 55 → 0
  - 建物保険金の処理終了（差額を保険差益計上）

#### ▶ 純資産

- ✓ 第16回新株予約権による資金調達

## 第16回新株予約権（2020年11月発行）行使完了

- 発行・行使による調達総額見込み 約735百万円
  - ✓ 当初予定 1,075百万円に対する充足率 68.3%
  - ✓ フェーズ1b試験費用・第2相試験ステージ1費用・運転資金支出削減により対応
- 2019年ファイナンス（第15回新株予約権・第3回転換社債）に生じた剰余差額328百万円と合わせた約1,063百万円について資金使途変更（2021年6月25日開示）
  - 臨床第2相試験ステージ1費用（2021年4月～2022年終了見込み） 約920百万円
  - 運転資金（2021年6月～9月） 約133百万円

## 第15回新株予約権・第3回転換社債（2019年10月発行）の状況

- 未行使新株予約権 約234百万円 行使価額 698.4円
- 未転換転換社債 約750百万円 転換価額 873.0円

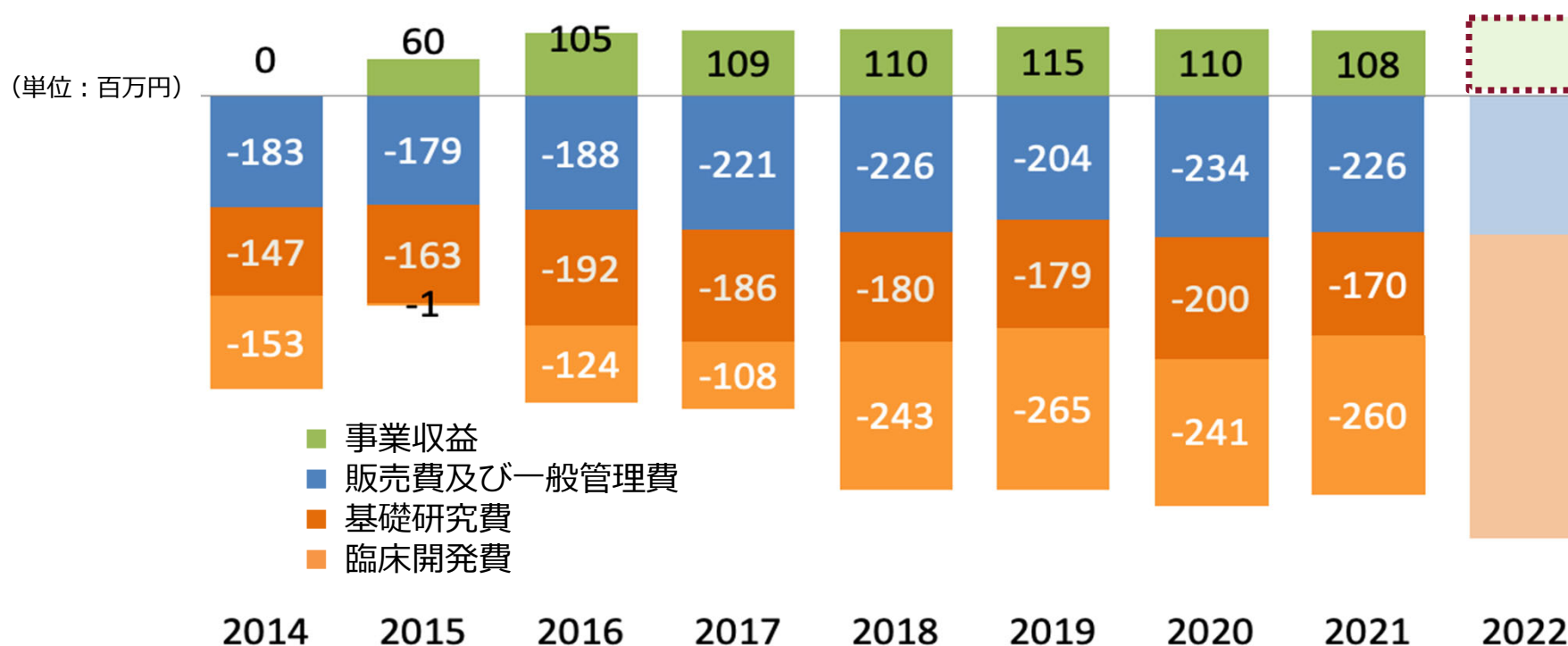


# 2022年6月期の業績予想

## 不確定要因が多く業績見通し非公表

- ✓ 事業収益・・・提携獲得実現に向け活動継続
- ✓ 事業費用・・・研究開発費が臨床第2相試験の進捗次第で大きく変動

### 新型コロナウイルス感染拡大の影響はない模様



# 2021年6月期に実現した 企業価値向上

---

## 免疫着火剤 CBP501

### ➤ 米国での自社臨床試験の進捗と成果

- ✓ フェーズ1b試験組入れ終了と速報データ公表（2020年9月24日・12月17日）
  - 膵臓がん3次治療以降で良好な結果 病勢コントロール43%・白血球数正常値患者群OS中央値5.9ヶ月  
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/4575/tdnet/1884672/00.pdf>
  - MSS直腸大腸癌 <https://ssl4.eir-parts.net/doc/4575/tdnet/1914008/00.pdf>

### ➤ **臨床第2相試験（対象：膵臓がん3次治療）の準備進捗**

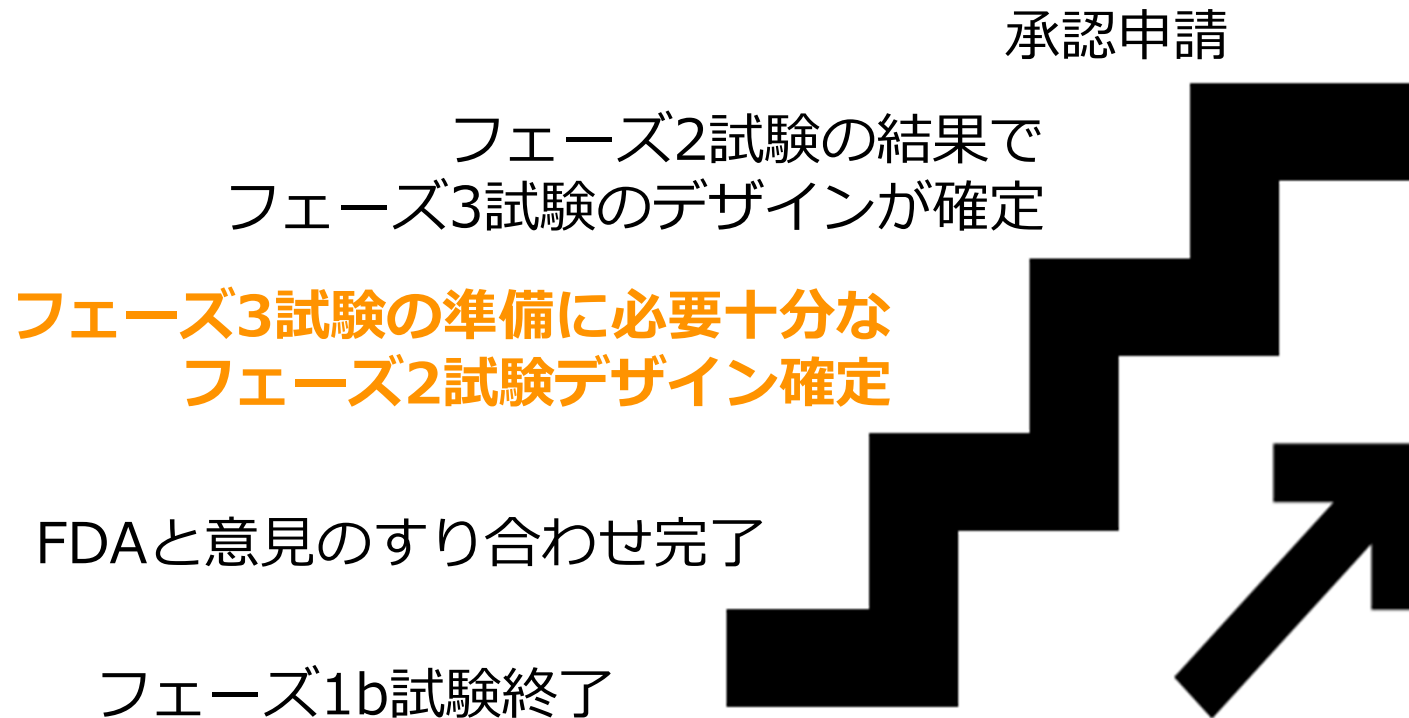
- ✓ FDAとのミーティングで第2相臨床試験プランの認識すりあわせ（2020年11月18日開示）
- ✓ FDAより第2相試験開始許諾（2021年4月1日）<https://ssl4.eir-parts.net/doc/4575/tdnet/1950363/00.pdf>
- ✓ 8月中の患者登録開始へ準備概ね完了（2021年7月27日ブログ）<https://www.canbas.co.jp/post-3028/>

## 可逆的XPO1阻害剤 CBS9106（Felezonexor）

- 提携先Stemline社による臨床試験の進捗ESMO2020発表（2020年9月23日公表）
  - ✓ 臨床第1相試験 進行中



 FDAとのミーティングで意見のすり合わせができ、承認への道筋が明確に



## 特徴① 必要十分な4つの投与群設定

- 必要な試験をやり残さない
- 不必要な試験をしない

↑ FDAとの認識擦り合わせの成果

## 特徴② 中間解析を実施する

- 「早期有効中止」「早期無効中止」
- 最短の試験終了を目指す

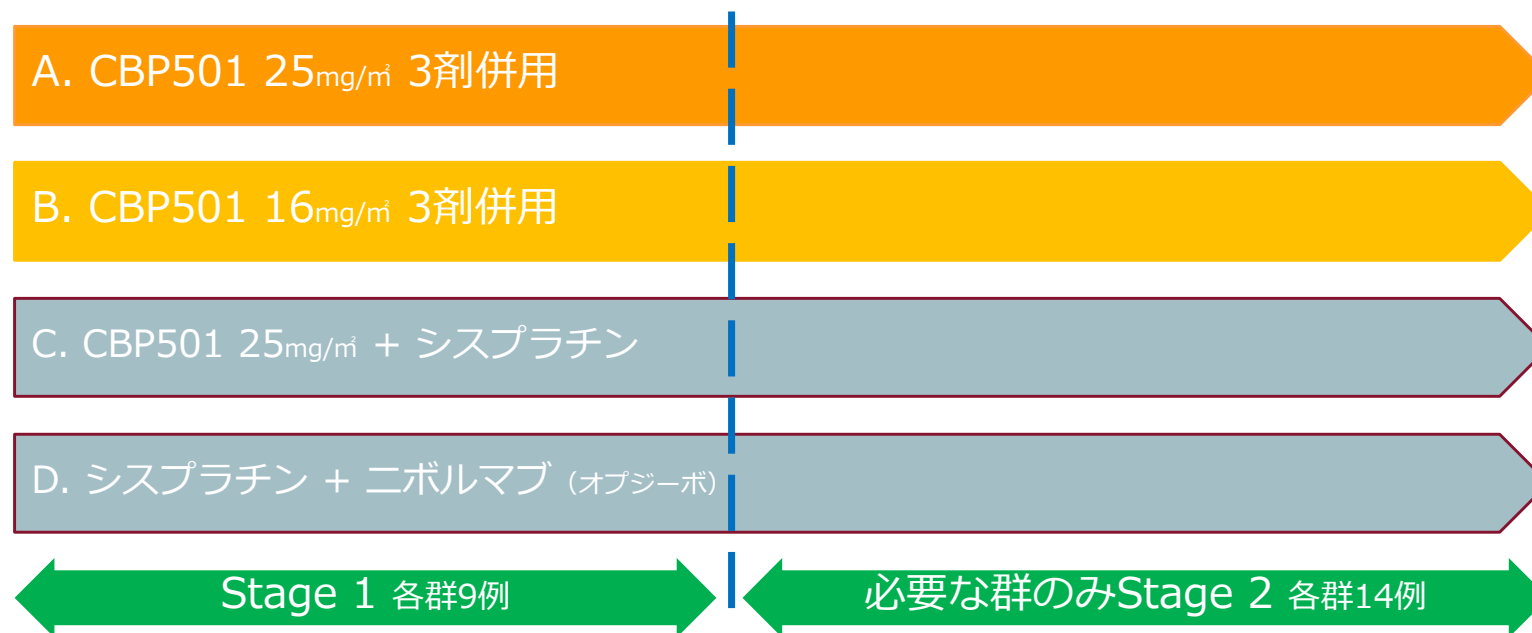
## 特徴③ 組入れペースが速い見込み

# CBP501臨床開発プラン (3) 特徴① 4つの投与群



4投与群による臨床第2相試験で  
臨床第3相試験の検討に必要なデータを獲得できる

## ■ 中間解析で「早期有効中止」「早期無効中止」を設定



### 利点 (可能性)

- ・ 早く結果が得られる・試験期間を短くできる
- ・ 全体の登録症例数を少なくできる
- ・ 臨床試験費用を抑制できる

## 今回の第2相試験の組入れペースはフェーズ1b試験よりも数段速い見込み

### ✓ スタート段階で14施設が8月中\*にオープン見込み

\*8月中のオープンのために当社にできる準備はすべて完了

- 今後+6施設、**合計20施設**まで増やす予定 ⇔ フェーズ1b試験は3施設

### ✓ ITT解析を実施

- ITT . . . intention to treat

割付実施後の中止・中断等も含め患者を除外せず。恣意的な患者選択をせずに解析  
= 患者登録・試験終了が速く、結果の一貫性も高い

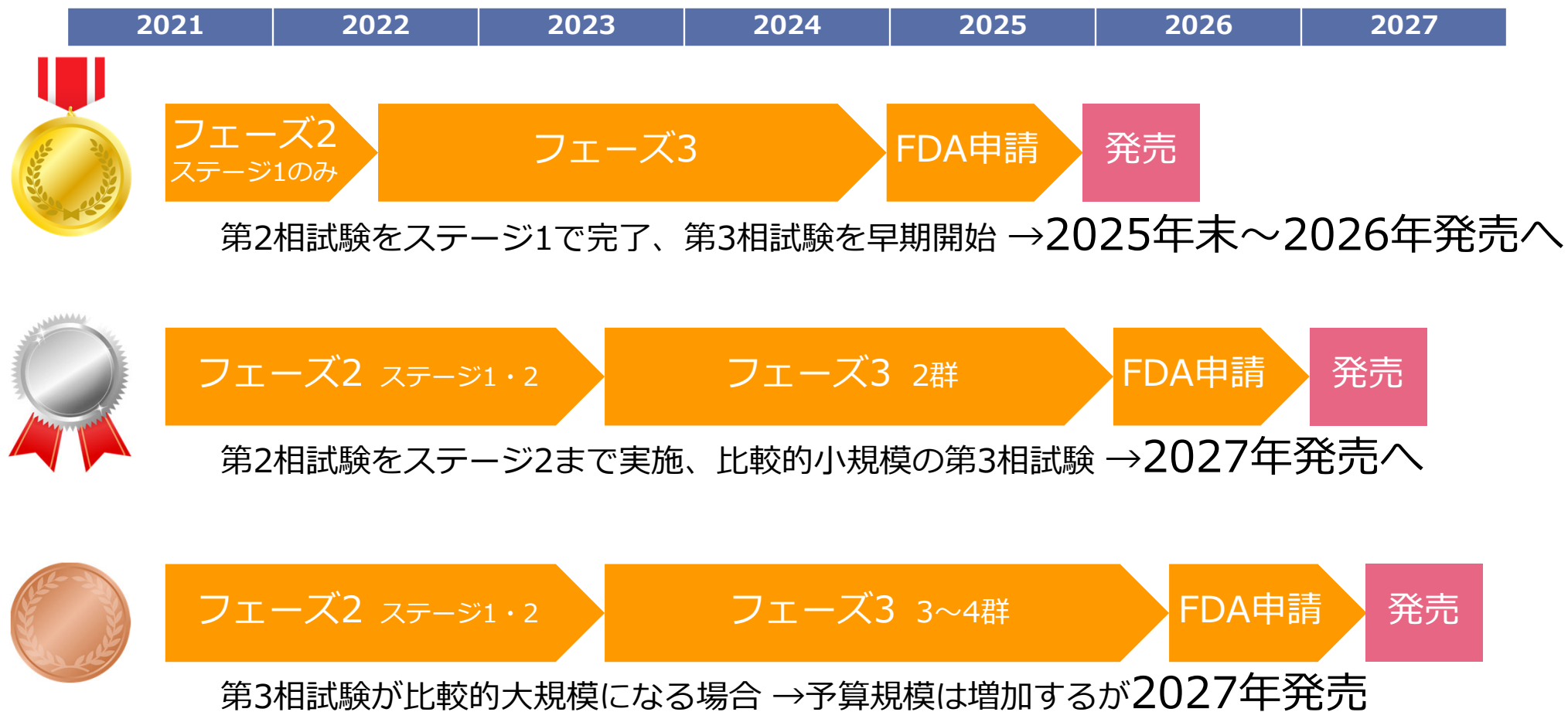
### ✓ 膵臓癌3次治療が対象

- 患者さんは新薬の登場を切望している  
= 患者登録に追い風



# CBP501臨床開発プラン (5) 承認・発売まで

## フェーズ2試験以降の時間軸



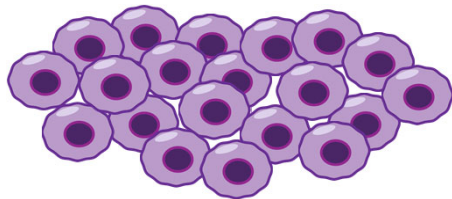
# 免疫着火剂 CBP501

---

# 免疫系抗がん剤を効きやすくするしくみ

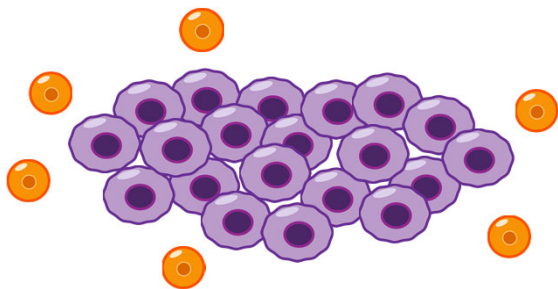
攻撃するための  
T細胞がない

免疫砂漠

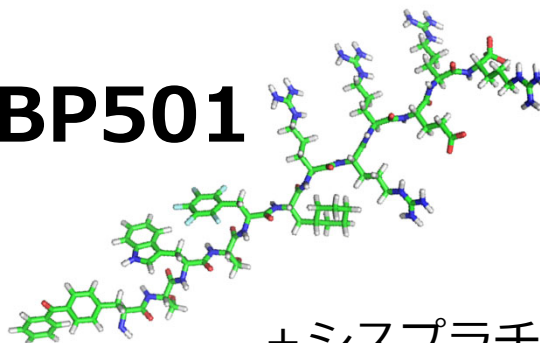


T細胞ががん組織に  
入り込めていない

免疫排除



CBP501

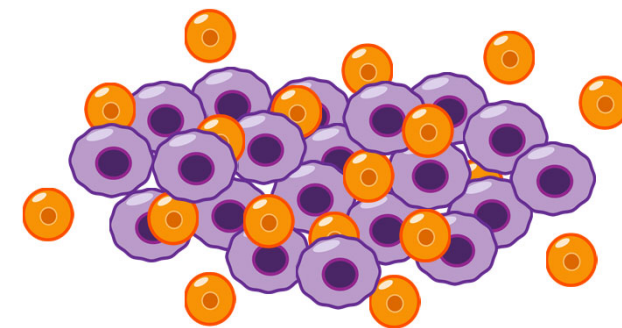


+ シスプラチン

免疫コールドながん  
を  
免疫ホットながん

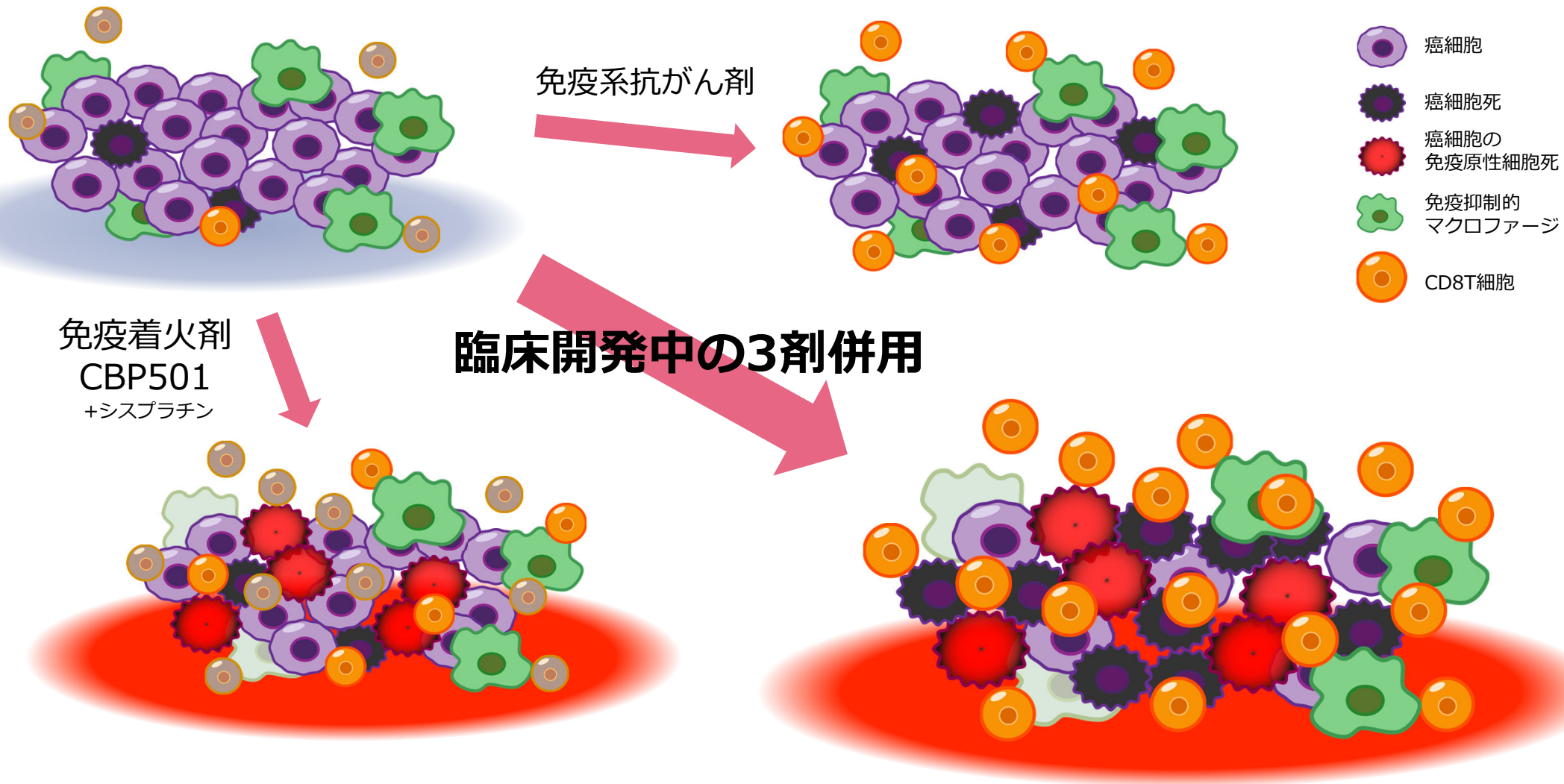
T細胞が十分いて  
がんを攻撃できる

免疫ホット



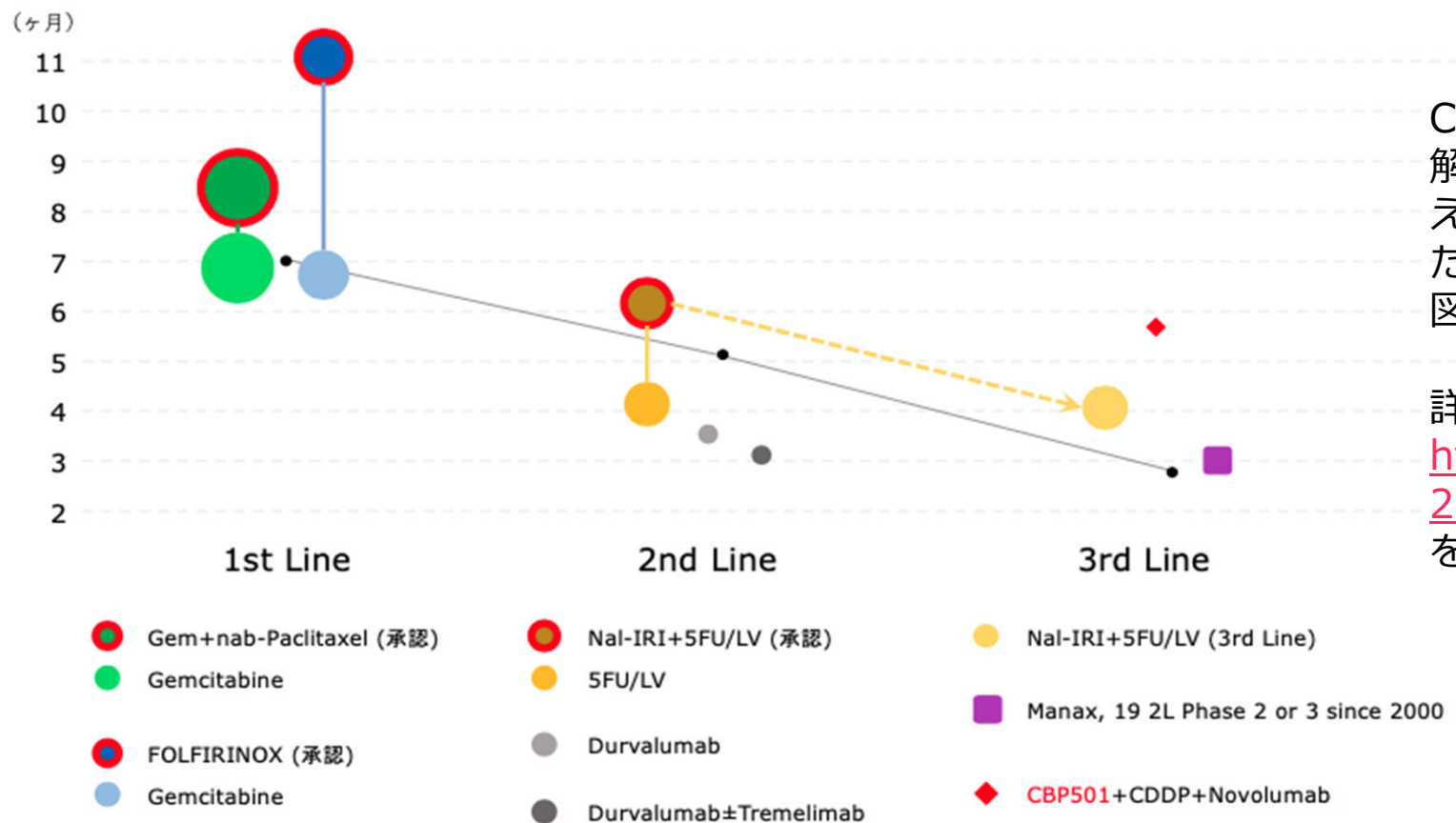
 癌細胞  CD8T細胞

# CBP501の3剤併用で免疫系抗がん剤を効きやすくする



# CBPフェーズ1b試験のデータ（膵臓がん）

CBP501フェーズ1b試験中間解析 同種の膵臓癌臨床試験結果との比較（全生存期間）



CBP501フェーズ1b試験の中間解析結果を、比較に適すと考えられる他の臨床試験で示された全生存期間（OS）との比較で図示したものを。

詳細説明はブログ  
<https://www.canbas.co.jp/20200514/>  
をご参照ください。

# その他の研究開発

---

### 基礎研究～非臨床試験段階のパイプライン (ピックアップ)

#### ➤ CBP-A08

- ✓ 最適化を完了し、財務状況等を勘案し前臨床試験開始を模索

#### ➤ IDO/TDO二重阻害剤

- ✓ 静岡県立大学と共同研究で最適化を進行中。COVID-19新規治療薬への用途拡大研究にも着手

#### ➤ NEXTプロジェクト

- ✓ 新たなコンセプトの免疫系抗がん剤候補化合物の探索創出

#### ➤ 抗がん剤感受性予測システム

- ✓ 患者様個々の体細胞変異情報を用いて抗がん剤治療の結果を予測する  
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/4575/tdnet/1944800/00.pdf>

# キャンパスの強みと事業モデル

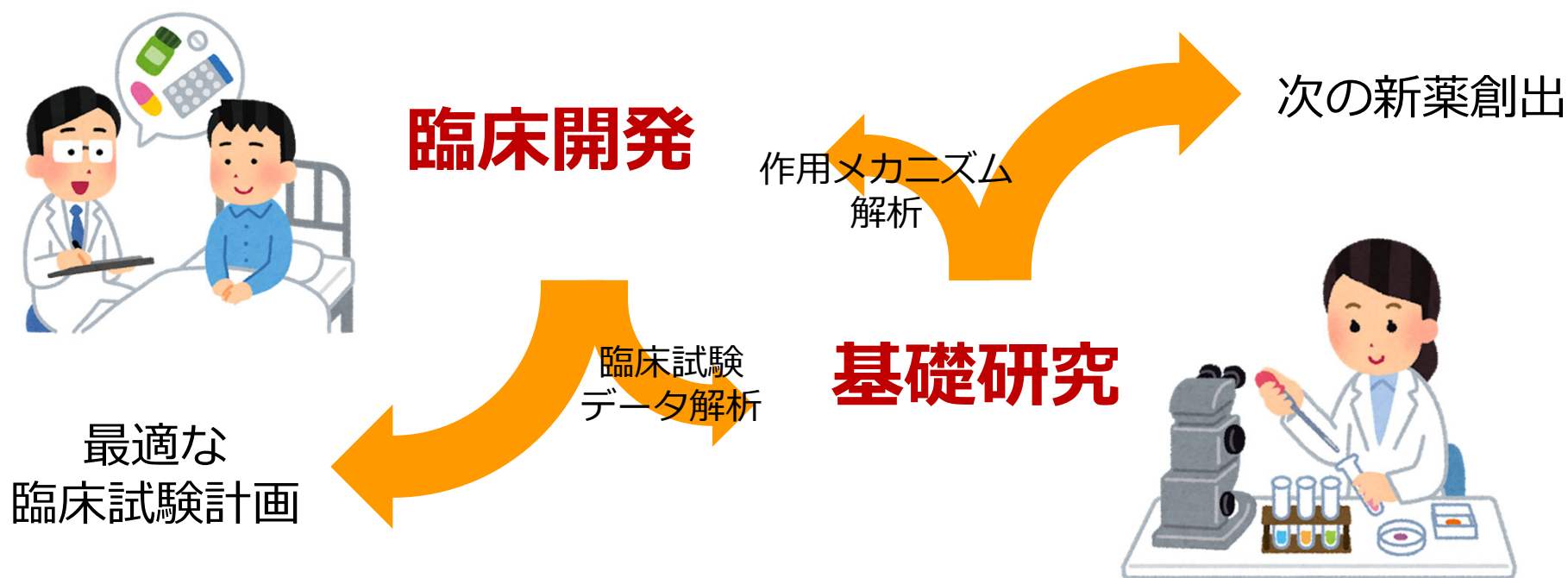
---



# キャンバスの強み (1) 基礎研究と臨床開発の連携サイクル

独自に創出した複数の化合物を臨床開発段階に進めている実績

- ✓ 本社に研究所と動物実験施設を有し基礎研究に注力
- ✓ 米国FDA規制下での臨床開発体制を社内に構築（外部協力機関の効率的な活用）



## キャンパスの強み (2) がん免疫に着目したパイプライン戦略

### 中長期の企業価値の源泉として重視

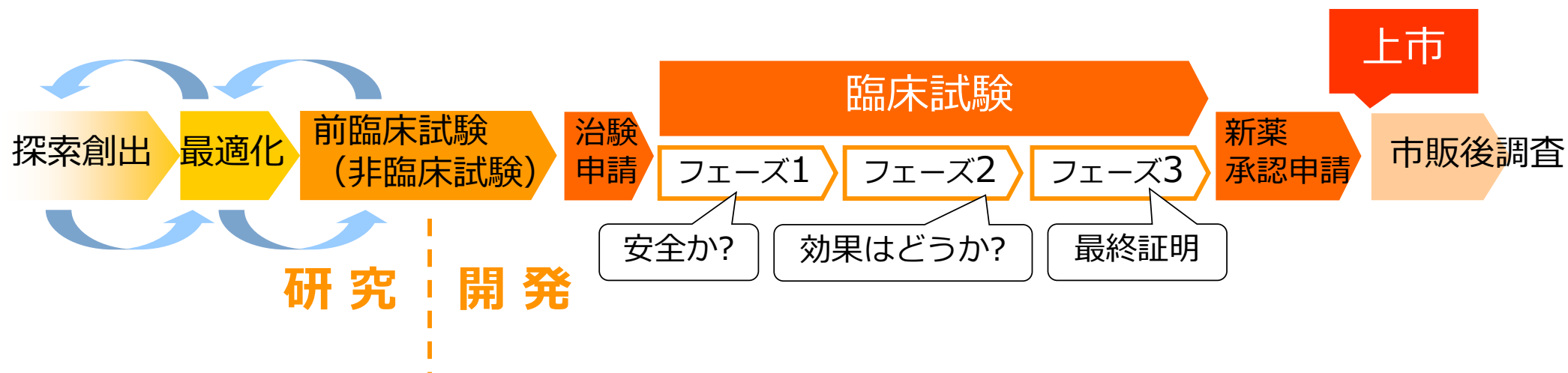
	探索・創出	最適化	前臨床試験	臨床試験	提携・導出 共同研究
<b>CBP501</b>				フェーズ1b試験投与終了 第2相試験ステージ1開始準備完了	
<b>CBS9106</b>	前臨床試験終了し導出済み			フェーズ1試験実施中	ステムライン社
<b>CBP-A08</b>	最適化終了				
CBP-B					
IDO/TDO阻害剤 ほか*					静岡県立大学

※ このほか、NEXTプロジェクトなどがん免疫領域で広く基礎研究を展開

※ IDO/TDO二重阻害剤は、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）新規治療薬としての研究にも着手  
（2020年8月4日公表） <https://ssl4.eir-parts.net/doc/4575/tdnet/1868281/00.pdf>

# キャンバスの事業モデル (1) 創薬の流れと開発投資・時間軸

## 「創薬」の流れ



一般に10~15年。それ以上のものも

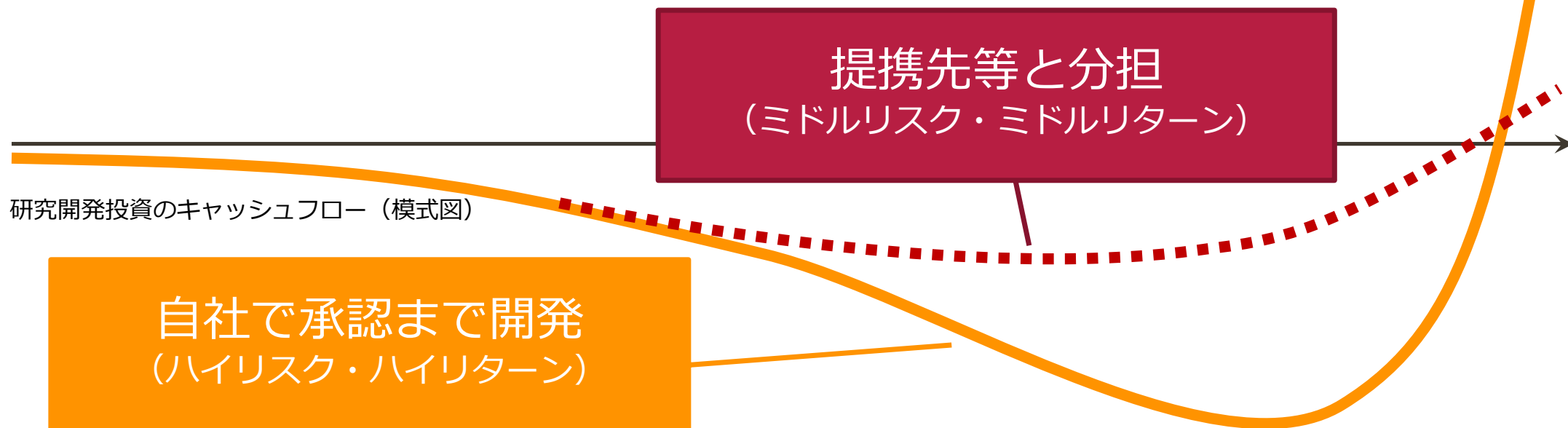
研究開発投資のキャッシュフロー (模式図)

一般に数百億円以上

## キャンバスの事業モデル (2) 柔軟な開発シナリオ分岐

### 創出から後期開発まで進められる能力

- 開発パイプラインごとの開発段階・成功確率・費用見込などに沿って使い分け、中長期的な企業価値の効果的な最大化を図ることが可能
- CBP501は提携獲得活動継続中。自社で承認まで開発するシナリオも選択肢に入れ得る状況
- CBS9106は提携先負担で開発、将来のマイルストーン収入とロイヤルティ収入を見込む



# キャンパスの企業価値

---

創薬企業の価値  $\equiv$  開発パイプライン価値の総和

➤ 開発パイプライン価値

- ✓ 開発パイプラインの成功（上市）可能性
- ✓ 成功までの時間軸
- ✓ 上市後の市場規模
- ✓ 競合状況
- ✓ 独占期間 . . .

創薬企業の本質的な事業は、上記のひとつひとつを改善し、

中長期的な企業価値を最大化すること = 開発の進捗

## CBP501のパイプライン価値

### ➤ 成功（上市）可能性の試算

#### ✓ フェーズ2試験をクリアしフェーズ3試験に進む可能性

- CBP501がフェーズ1b試験と同等の力をフェーズ2試験で発揮した場合・・・98%
- CBP501がフェーズ1b試験の2/3しか力を発揮できなかった場合・・・78%

#### ✓ その後のフェーズ3試験の成功確率

- 抗がん剤全般のフェーズ3試験成功確率・・・33.0%\*

\* “Clinical Development Success Rates 2006-2015” Biotechnology Innovation Organization, Amplion, Biomedtracker)

### ➤ 成功までの時間軸

#### ✓ 最も速く進行した場合\* 2025年末～2026年の発売を見込む

\*フェーズ2試験をステージ1で完了、第3相試験を早期開始した場合

#### ✓ 他のシナリオの時間軸は本資料 p.15参照

## キャンバスの企業価値 (2)

### CBP501のパイプライン価値 (続き)

#### ➤ 上市後の市場規模

✓ 米国のみでピーク時900億円の収益を見込めると試算

膵臓癌 3次治療 米国患者数	4.7万人以上
×	
薬物治療を選択する患者の割合	20%~70%
×	
来院しない患者を考慮	80%程度が来院を継続
×	
CBP501の獲得するシェア	ピーク時の市場シェア60%
×	
投与期間	4カ月以上
×	
ひと月の薬剤費	200万円前後 (オニバイドを参考)



## キャンバスの企業価値 (3)

### CBP501のパイプライン価値試算

#### ➤ 上市後の売上高・利益の想定

(単位：億円)

	2026+X(Y1)	2026+Y2	2026+Y3	2026+Y4	2026+Y5	2026+Y6
末端売上高 (≒販売委託先末端売上高)	400	500	570	620	700	750
営業利益	160	200	228	248	280	300
純利益	107	134	153	166	188	201

#### ➤ 試算

- ✓ 上記6年間の純利益合計 949億円 (PER6倍想定相当)
- ✓ 成功確率・投資費用・時間価値等のディスカウントを保守的に見ても現在の時価総額は過小評価と思われる

# キャンバスの企業価値 (4)

## CBP501の初期適応（膵臓がん3次治療）の現状

➤膵臓がん2次治療以降の患者さんは、新薬の登場を切望している

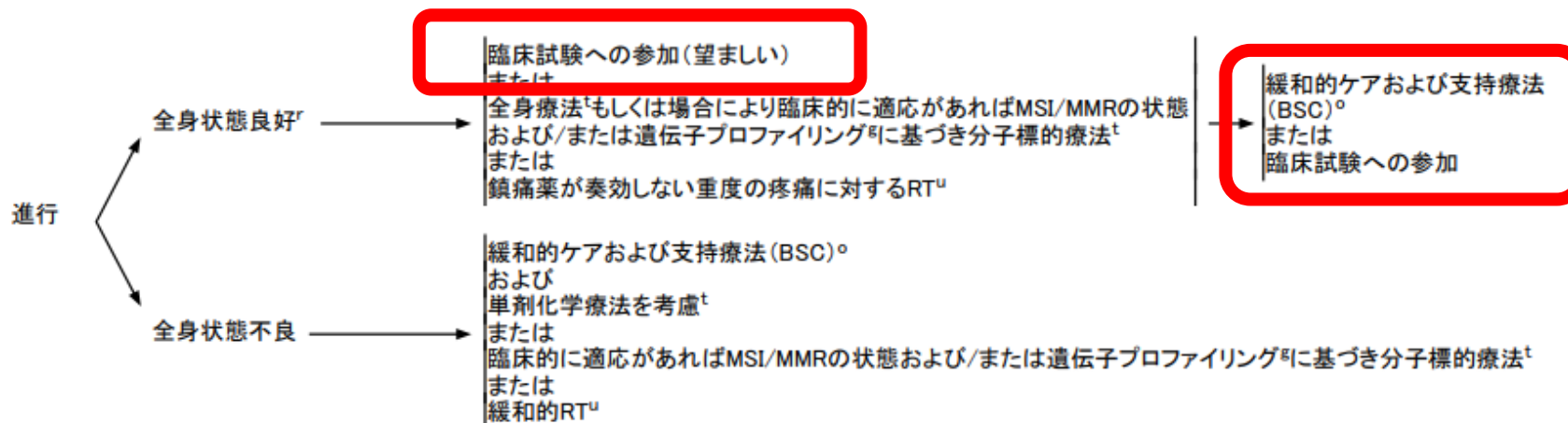


### NCCN Guidelines Version 1.2021 膵癌（腺癌）

ガイドライン索引  
目次  
考察

進行

二次以降の治療<sup>o</sup>

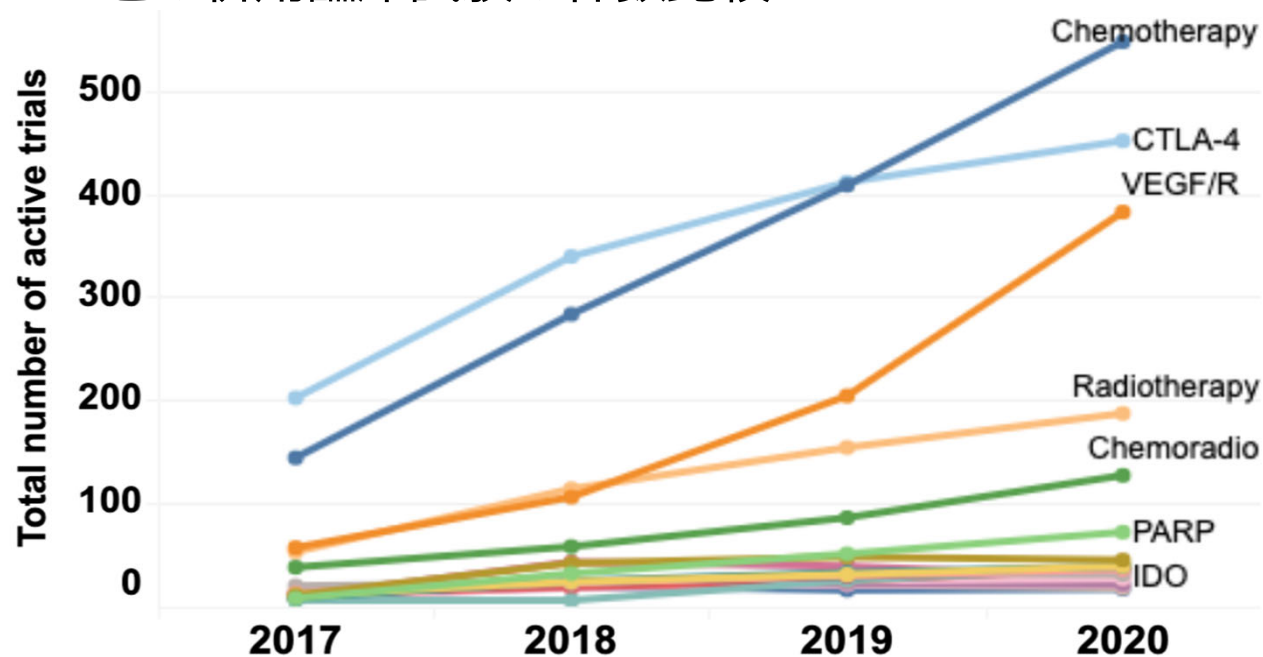


※NCCN腫瘍学臨床診療ガイドライン2021年第1版日本語版 医療イノベーション推進センター  
<https://www2.tri-kobe.org/nccn/guideline/pancreas/japanese/pancreatic.pdf>

## キャンバスの企業価値 (5) CBP501の開発競合環境①

### 免疫チェックポイント抗体との併用開発競争

#### ➤ PD-1・PD-L1との併用臨床試験の件数比較



※"PD-1/PD-L1 Landscape" Cancer Research Institute  
<https://www.cancerresearch.org/en-us/scientists/immuno-oncology-landscape/pd-1-pd-l1-landscape>

CBP501は免疫チェックポイント抗体との併用開発競争のメインストリームにいます

## キャンパスの企業価値 (6) CBP501の開発競合環境②

### 膵臓がんを適応とする開発競争

ClinicalTrials ID	会社	開発コード	作用機序	併用	対象	規模	フェーズ	現状
NCT02826486	BioLineRx	BL-8040	CXCR4阻害	PD-L1抗体, Onivyde, 5FU	2次	29	2a	この適応の開発中止
NCT04329949	Corcept	Relacorilant	副腎皮質ホルモン阻害	Nab-paclitaxel	2次	80	3	この適応の開発中止
NCT03797326	Eisai/Merck	E7080/MK7902	マルチキナーゼ阻害	PD-1抗体	2/3次	760	2	探索的試験
NCT03512756	Tyme	SM-88	チロシン類縁体	シロリムスなど	3次	250	2/3	この適応の開発中止
NCT04229004	Tyme	SM-88	チロシン類縁体	シロリムスなど	1/2次	825	2/3	2020年1月開始
NCT02558894	AstraZeneca	MEDI4736	PD-L1抗体	CTLA-4抗体	2次	65	2	全体では失敗
NCT02890355	AbbVie	ABT-888	PARP阻害	5FU, LV, Onivyde		143	2	この適応の開発中止
NCT01959139	Halozyme	PEGPH20	ヒアルロン酸分解	FOLFIRINOX	1次	492	3	失敗 (2019年11月発表)
NCT02923921	EliLilly	AM0010	PEG-IL10	FOLFOX	1次	566	3	失敗 (2019年10月発表)
NCT01373164	EliLilly	LY2157299	TGFβ阻害	Gemcitabine	2/3次	170	1b/2	この適応の開発中止

※ClinicalTrials.gov、報道記事等をもとに当社作成

CBP501は膵臓がん3次治療を適応とする開発競争のトップランナーです

### CBP501の初期適応（膵臓がん3次治療）領域の他社臨床開発状況

- 競合はほぼ見当たらない
  
- CBP501はトップランナー
  - ✓ 2021年6月、Tyme Technologies, Inc.  
「開発品TYME-88、膵臓がん3次治療の患者登録を中止」 = 試験中止
  - ✓ 2021年6月、Corcept Therapeutics  
「開発品RELACORILANT、有効性懸念のためこれ以上の研究を正当化できない」  
= 膵臓がん3次治療での開発は中止

### CBP501開発の現在地

- 1年後には、①上市確度上昇 ②適応拡大期待 が明確に出てくる



一般に  
成功確率が  
低いと  
いわれる  
**2相試験の崖**を  
高確度で  
超えようと  
しています

### この崖を超えれば・・・

- 第3相試験のデザインが確定
- 上市の確度が劇的に向上

### 適応拡大も視野に

- 膵臓がん3次治療で承認獲得後、2次治療など上流への適応拡大
- 大腸がん、卵巣がん、肺がん、悪性胸膜中皮腫などへの適応拡大

## パイプライン価値の 総和

(パイプライン価値については前述)

× **ディスカウント** =

**企業価値**

### ☒ 一般的ディスカウント要因

- 成功確率
- 時間価値

### ☒ 当社/創薬に特有の要因

- 開発継続への懸念
  - ✓ 開発資金の確保
- 評価の困難性
  - ✓ 専門知識
  - ✓ 比較対照・競合
  - ✓ 代替的評価・提携の不在

### ☒ 足元の過小評価の 要因と考えられるもの

- パイプライン価値の周知不足
- 主に提携の不在による  
開発継続懸念などディスカ  
ウント要因の保守的算入
- 開発進捗の価値評価が未反映

### ☒ 中長期の是正に向けて

- 丁寧な投資家リレーション
- 開発資金の確保
- 提携の獲得

# キャンバスを知る情報源

---



- ウェブサイト <https://www.canbas.co.jp> ※2021年4月リニューアル  
マネジメントブログ <https://www.canbas.co.jp/blog/>
- 公式ツイッター <https://twitter.com/canbas4575>
- アナリストレポート
  - ▶ フェアリサーチ  
最新版『免疫着火剤CBP501：新薬申請に向けた視界が開ける』  
<https://column.ifis.co.jp/company/132165>
  - ▶ シェアードリサーチ  
<https://sharedresearch.jp/ja/4575>
- TV出演
  - ▶ 日経CNBC 『攻めのIR Market Breakthrough』  
<https://www.youtube.com/watch?v=tZbSEhhyutI>



#### ■将来見通し等に関する注意事項

- ▶ 本資料は、当社に関する情報の提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
- ▶ 本資料における将来予想・見通し等に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- ▶ 業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。
- ▶ 本資料は、受領者がいかなる目的にご利用される場合においても、本資料受領者ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示するものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

■お問い合わせ先： 株式会社キャンバス 管理部 IR担当  
Email IR@canbas.co.jp